

令和2年度 自己評価及び学校関係者評価書

1 本年度の重点目標～生徒・保護者の立場に立って～

- (1) 自律を促す生徒指導の推進
 ・ 基本的な生活習慣の確立 ・ 豊かな人間性を育む ・ 保護者、地域、関係機関との連携
- (2) 充実した学習指導の推進
 ・ 学習意欲の向上を目指す ・ 確かな学力の定着を図る ・ 教育課程の編成・実施・評価に関する研究
- (3) 将来を目指した進路指導の推進
 ・ 社会的職業的自立に向けたキャリア教育の推進 ・ 総合、進路行事、セミナーの充実
- (4) 特色ある学校教育の推進
 ・ 普通コース・DAコースの充実発展に努める ・ 主権者として未来社会を築く力を育む

2 本年度の経営方針

10年後を見据えた教育活動を推進する。- must・have to から want to へ -

- (1) 教職員相互の信頼に基づく、一体化した学校運営に努める。
- (2) 新たな学習指導要領を踏まえた生徒主体の魅力ある授業づくりに努める。
- (3) 多様な価値への理解を深めるとともに地域に根差した開かれた学校づくりを推進する。
- (4) 危機管理と健康安全教育によって、生徒の健康と安全を守る基盤を強化する。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
危機管理	学校は、生徒が安心安全に過ごせる場となっている。 <参照項目> 教員アンケートQ1 保護者アンケートQ1 生徒アンケートQ1	A	昨年の達成状況はBであった。その要因であった教員の一次評価は改善している。今年度は、コロナウイルス感染症対策関連で、「他人への思いやり」が感染症の対策にも通じる考え方である、と生徒に確認する場面が多かった。また、家庭でも同じ考えで接していただいたことが伺える。以上から自己評価をAとした。今後も、コロナ対策に限らず、様々な場面で、学校や仲間を大切にすることを育てていきたい。一方で、周囲になじめない等の個別の事情を抱えた生徒に対するサポートについて、これからも組織的に支援していく必要がある。	A	A
自律を促す生徒指導	生徒が基本的な生活習慣を確立できるよう、自律を促す指導がなされている。 <参照項目> 教員アンケートQ2 保護者アンケートQ9 生徒アンケートQ9	A	アンケート結果では、多くの生徒が高い意識を持って生活習慣を維持していたことがうかがえ、長い休校期間においても家庭のご指導のもとで意識づけがなされていたと。また、三者会議で生徒の提案を受け、今年度ジャージ登校を試行したところ、コロナウイルス感染症対策や夏の暑さ対策に効果があることが確認できた。一方、制服で登校するべき場面で、切り替えができない生徒もいた。制服以外のことも含めて、ルールを変更した場合などに、様々な背景を持つ生徒の自律を引き出すために、「誰が、何を、どう伝える」ことが効果的なのか、今後個別生徒の事例研究を重ねていきたい。	A	A
自律を促す生徒指導	教職員と生徒、生徒相互が信頼関係を築き、生徒の豊かな人間性を育む教育活動が行われている。 <参照項目> 教員アンケートQ3 保護者アンケートQ1・7・8 生徒アンケートQ1・7・8	A	上の危機管理の項目でも述べたように、生徒の多くが思いやりに対して高い意識を持っている。一方で、長期休校やコロナウイルス感染症対策の影響で、行事や集会の機会が大幅削減され、1年生に特に影響が出ていると考えられる(Q7・Q8で肯定的な回答が他学年より顕著に少ない)。次年度は、感染症対策の今後の行方にもよるが、行事や集会を通して、生徒相互が交流し、結びつきや信頼関係をより強固なものとしていくことができるよう、三者会議などを通じ生徒の意見交換	A	A

			の場面の設定や、行事運営の工夫を検討したい。		
	保護者、地域、関係機関に適切に連絡・情報共有を行い、連携して生徒を指導している ＜参照項目＞ 教員アンケート Q4 保護者アンケート Q3	A	休校期間の影響で、学校 HP の更新や、PTA メールで登録者に一斉配信することが増え、PTA メールアドレス登録が 100% を達成したクラスもある。一方で、PTA や振興会などの集会や企画、生徒が地域の催しに参加する企画は、感染症対策としてやむを得ず中止となったものも多かった。幸いほとんどの方が状況に理解を示していただくことができたが、次年度は延期した 40 周年事業の開催をはじめとして、一層連絡や情報共有を適切な形で行えることを期待したい。また、地域の方からは、生徒の善い行いや、厳しいご指摘内容の情報提供をいただくことがあり、関心や愛着をもって生徒を見守っていただいている。引き続き、地域の中できちんと育てていくことを大切にしていきたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達を拝見していると、年々グレードアップしている様子がうかがえる。 ・先生方の考えが厳しめなのが気になります。 ・新型コロナウイルス感染症対策下においても、生徒の健やかな学びを止めないように工夫されている教職員の取組は大変評価できる。また、三者会などの特色ある取組等についても次年度以降も、大胆かつ創造的な工夫を加えながらより一層の深化・発展した内容となるよう期待する。 ・前例がない状況下で、先生方が様々な工夫をされて対応してきた事と思います。不自由な面が先に来た後で、対策を練る際にコミュニケーションが増えた面もあろうかと推察いたします。コロナ禍に立ち向かうべく奮闘され、カバーされたことは称賛に値すると思います。 ・今年度はコロナウイルス感染症対策のため、例年通りにはできないことが多々あり、先生方もご苦労されたこととお察しいたします。今後も暫くはウィズコロナと想定し、可能な限りコミュニケーションを絶やさず生徒が安心して学校生活を送れるような工夫をお願いいたします。 ・高校生としてのアイデンティティが確立されておらず、かつ、人間・交友関係もまだ未形成であった 1 年生にとくに大きな影響が出ているのではないかと懸念しています。 ・下記の学習面にも関わることですが、休校措置にともない、家庭環境・経済条件の違いによって生徒の発達・成長により大きな影響が生じることを懸念します。きめ細やかな対応が求められると思います。 ・コロナ感染防止の日常的な取り組みも教職員の非常に大きな負担になっているのではないのでしょうか。なかなか難しいことではありますが、過剰に敏感になることのないよう、正しい情報の共有（コロナに関する学習）もまた必要ではないかと思えます。 				
充実した学習指導	生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学習に取り組めるように指導している ＜参照項目＞ 教員アンケート Q5 保護者アンケート Q2・4 生徒アンケート Q2・4	A	学習意欲の高い生徒が各学年とも 8～9 割を占めており、非常に可能性を感じる。また、教員も 7 割以上が生徒の意欲を高める指導に意欲的に取り組んでいる。一方で、高校生としての自覚形成を促すべき入学当初が休校期間になってしまった 1 年生では、自主的な家庭学習への取り組みがまだ少ない傾向がある。他学年も含めて、各教科で、生徒の学習意欲の高さを、主体的な学習へとつなげる工夫を研究・実践していきたい。	A	A
	授業では、基礎基本を大切にしながら確かな学力の定着が図られている。 ＜参照項目＞ 教員アンケート Q6 保護者アンケート Q3 生徒アンケート Q3	A	生徒のアンケートでは、授業の理解に自信がない生徒もみられる。昨年同様学年が上がるにつれ、改善傾向が見られることから、前項の主体的な学習への取り組みが増えることによって、基礎基本が定着するサイクルが想定される。また、今年度については、長期休校期間の影響も考えられる（この点は次項で触れたい）。今年度から大学入試では共通テストが導入され、知識の定着に加えて知識を活用する力も重要となる時代を迎えている。限られた時間の中で、基礎基本となる知識と、その活用能力をバランスよく身に着ける学習スタイルを、生徒とともに授業で実践し改良していく工夫・研究を推進していくことが必要となる。コロナの影響で、GIGA スクール構想が加速し、休校の場合でも主体的に学習に取り組むことが可能な環境が今後整備されるので、ICT も取り入れた新	A	A

			しい授業のデザイン開発を進めることで、課題の解決を目指していききたい。		
	生徒の理解度を考慮し、授業や評価の工夫改善が行われている。 ＜参照項目＞ 教員アンケート Q7 保護者アンケート Q3 生徒アンケート Q3	A	昨年同様、教員が意欲的に取り組んでいる。ただし、今年度に関しては、長期休校の影響で授業計画も大きく見直す必要があり、内容を精選して進度を確保せざるを得ない状況であった（このことが、前項の基礎基本の定着に関する生徒の回答につながっている可能性も考えられる）。教員からは、（自らの責任とは言い難い要因で）計画通りにできていないことについて、自己評価することが難しいという回答もあり、意欲が高い分、日々の授業で苦悩することが多かったと思われる。引き続き、指導と評価の一体化に向け、より多くの教科・教職員が取り組むよう、環境づくりをさらに進めていききたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学業の内容等は、子供達をみて成長度を計るべきでは！ ・（無回答を含め）先生方の評価の低さが気になります。 ・新型コロナウイルス感染症対策下において、学びを止めないために、授業の工夫を講じていただいていることは大変評価できる。 また、ICTの工夫についても日常の授業内容を含めて今後の取組に期待する。 ・皆様が意欲的に学習指導に向けて取り組まれている姿勢を感じます。生徒も先生方の熱意を受け止めて前向きに学習に励んでいると感じますので、ぜひこの取り組みを継続して頂ければと思います。 ・コロナの影響により生徒が自分の学力に自信がないのか、教員と保護者の評価との乖離が気になります。教員が思うように授業をできなかった事情を踏まえた上で、生徒に自信を持たせる働きかけを更に行っていく必要があるように思いました。 ・全体的に生徒の学習意欲が高まっているのは、教員の皆さんの努力の表れだと思います。 ・家庭学習に取り組むことができる条件の有無への目配りをお願いしたいと思います。 ・教員の皆さんも、試行錯誤で教育実践を続けてこられたのではないのでしょうか。個々の教員任せではなく、例えば、オンライン授業に関する情報・実践交流など、教員を支える組織的な取り組みも、学内で、あるいは一つの学校をこえて、必要ではないかと思えます。 				
将来を 目指した 進路 指導	生徒一人ひとりの適性や興味に応じて、社会的職業的自立に向けた進路指導や進路相談がなされている。 ＜参照項目＞ 教員アンケート Q8 保護者アンケート Q5 生徒アンケート Q5	A	進路支援部やキャリア支援部が作成した年間計画が、休校や感染症対策の影響で次々と変更や中止を余儀なくされた。その中でも、限られた機会を活用して、例えば福祉の仕事に取り組んでいる方々の取組をシリーズで紹介する企画など、進路意識を高めるような工夫を実施できた。アンケートでは、生徒の肯定的な回答が半分に満たないが、こうした状況の中では妥当な結果と考えられる。次年度は、企画をさらに工夫し、コロナ感染症対策を講じながらも実施できる内容を増やしていきたい。	A	A
	進路行事（進路探究セミナー、職業体験、進路講演会、など）は、充実している。 ＜参照項目＞ 教員アンケート Q9 保護者アンケート Q5 生徒アンケート Q5	A	前項と同様であり、次年度に向けて実施可能なプログラムを増やせるよう、工夫を考えたい。	A	A
	進路指導部主催のセミナーは、生徒・保護者の希望や実態に即して効果的に実施されている。 ＜参照項目＞ 教員アンケート Q10 保護者アンケート Q6 生徒アンケート Q6	A	セミナーに関しても、3年生は何とか新型コロナウイルス感染症対策と両立させながら規模を縮小して実施できたが、感染症対策を十分講じることが難しかった1・2年生は、申込手続きの案内まで準備したものの、感染状況の影響により最終的にすべて中止となった。次年度に向けて実施可能なプログラムを増やせるよう、工夫を考えたい。	A	A

<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・直接かかわることがないのでよくわかりませんが、先生方のアンケートの回答内容が気になります。子供達は一生懸命だと思いますし、通学時の生活態度はすごく良くなっていると思います。 ・R4の新学習指導要領の実施に向けて、本校がこれまで推進してきた着実な進路指導の実績をもとに、キャリア教育全体の総合的な発展を念頭においた取組に期待する。 ・今年度は過去にない特殊事情があったため、予定通りできなかったことはやむを得ないと思いますが、機会がないままでは、今後に影響が出かねないため、オンラインのできる事、そして、三密対策を十分にを行ったうえでの行事開催を進めてほしいと思います。 ・突然のコロナ禍において、学校側ができる限りのことをしていることがうかがい知れます。 ・各種の行事が中止となった中での取り組み、工夫を評価いたしました。 				
<p>特色ある学校教育の推進</p>	<p>普通コースとデザインアートコースが、相互に影響を与えながら特色を生かした充実した教育活動を行っている。 <参照項目> 教員アンケート Q11</p>	<p>B</p>	<p>今年度は校務分掌にデザインアートコース長をおいて、10年先を意識した将来構想を検討する予定であった。しかしこれまで実績を重ねてきたDAの取組(さっぽろ雪まつりへの参加など)もコロナ感染症対策のために中止となるものが多く、その対応に追われて結果的に検討のたたき台の案をまとめるに至らなかった。このため自己評価はBとした。次年度は、これまでの取り組みを生かしながら、平岸高校の学校文化・風土を発展させるため、新しいビジョンのたたき台を提示することを目指したい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>「平岸高校三者会議」は、開かれた学校づくりに役立つとともに、生徒の社会参画意識を育てている。 <参照項目> 教員アンケート Q12 保護者アンケート Q7 生徒アンケート Q7</p>	<p>A</p>	<p>主権者教育の充実のためにも、昨年の成果をさらに発展させることを目指した今年度であったが、休校とそれに続く感染症対策の影響で、全校集会も開催できず、保護者の方々を招くこともできなかった。しかし、生徒会との連動により、置かれた状況の中で開催できる学校行事を作る試みが行われ、保護者の方からもご意見をいただきながら、「ヒラリンピック」という行事を9月に開催することが出来た。次年度は本来目指していた三者会議の活動を実践し、伝統が受け継がれるよう、工夫していきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>生徒は、生徒会活動、部活動、学校行事などを通して、未来を築く力を身につけている。 <参照項目> 教員アンケート Q13 保護者アンケート Q8 生徒アンケート Q8</p>	<p>B</p>	<p>学校行事の精選と授業時間の確保が求められている中で、休校期間が長期に及び、その後も感染症対策の影響で放課後の活動が思うようにできない場面が多かった。また、部活動については目標としていた大会が中止になるなど、ひたすら忍耐を求められることが多かった。アンケート結果では、特に1年生の肯定的な回答が2・3年生に比べて少なく、大きく影響を受けたことがうかがわれる。次年度は、学校でできることについては、対策を工夫して実施できることを増やしていきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>国際交流や、ユネスコスクールとしてESD(持続可能な開発のための教育)を意識した取り組みが充実している。 <参照項目> 教員アンケート Q14 保護者アンケート Q10 生徒アンケート Q10</p>	<p>B</p>	<p>今年度はコロナウイルス感染症対策の一環で、これまで実績を重ねてきた国際交流事業も軒並み中止となった。生徒・保護者からも肯定的な回答は多いとは言えない。これらのデータから、自己評価はBとした。しかし、総合的な探究の時間や授業の中では、国連が定めた持続可能な社会の達成目標である「SDG's」に関する題材を積極的に取り上げる動きも広がりを見せている。新学習指導要領でも「SDG's」に関する題材をテーマとする探究的な学びが推奨されているので、今後もこうした動きはさらに拡大すると考えられる。ユネスコスクールの使命として、本校が他校をリードするくらいの取組となることが期待されているので、今後さらに実践を重ねていきたい。また、学校HPなどを活用して良い取り組みを情報発信していく努力も積み重ねたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>

<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの関連で今までにない未曾有の問題が出て、すべての団体が対応に困難を極めており、学校が自己評価をBとしているのは、個人的には不満ですが、謙虚さをもって考えていることを前向きにとらえてAとしました。 ・新型コロナウイルス感染症対策下においても、「ヒラリンピック」の活動をはじめとして生徒の創造性を生かした取組の工夫を実践できたことは大変評価できる。新しい生活様式の中で、本校らしい創造性のある取組内容を大胆に進めることを期待する。 ・デザインアートコースの生徒の取組は、平岸高校の特色ある学びのすがたとして注目されているので、SDGsのフレームなどとコラボした取組等幅広い活動を期待する。 ・それぞれの項目は、コロナ禍においては実施困難なものばかりであり、生徒から満足との回答を例年よりも得られないことはやむを得ないと考えますが、保護者からの肯定的な回答が多いとは言えない状況は気になります。保護者の職場や家庭でも制約がある中で過ごしてきたはずですので、もう少し理解を得られるコミュニケーションが必要だったのか、学校に対する評価が厳しかったのか定かではありませんが、いずれにせよ人と人とのコミュニケーションを制限しなければならない状況下では学校側が取りうる選択肢はほとんどなく、現状がやっとなのではと感じます。 ・コロナの影響で急な変更を余儀なくされたことが、多くあったと思います。今年度の経験を糧に、次年度に向けて再考していくことが大切ですね。 ・いわゆるブラック校則が社会問題化しています。人権侵害という観点から問題であるのは言うまでもないことですが、加えて問題は、思考力や判断力を子どもから奪うことではないかと思います（「共通テスト」の目指す方向とも逆行しています）。その点でも「三者会議」の実践に期待しております。
<p>総括</p>	<p>昨年度の終わりごろから拡大を見せた新型コロナウイルス感染症により、かつてないほど年間計画が計画通りに実施できない1年となった。自己評価も、できていないことが多々あることから、学習指導の項目の三番目でも若干言及したように、すべて達成状況はB（「改善の余地あり」とするのが客観的な態度ではないのか、という思いもあった。しかし、そのような事態の中でも、「できることは何か」を考える生徒や教職員の姿、また度々の変更のお知らせや協力をお願いを、状況に照らしご理解やご協力をいただいた保護者の方々や地域の方々の存在などが、強く印象に残る1年でもあり、本校の教育標語である「For the Best」の精神が、学校の内外で息づいている手ごたえも感じられた。実施できていない計画の多さに比して、生徒や保護者の方の評価アンケートが各項目とも比較的肯定的な回答で占められているのも、こうした肌感覚と符合していると解釈して、今回の自己評価を作成している。</p> <p>昨年度も、学校における「危機対応」のあり方が課題であったが、今年度はまた違った角度から問われることになった一年であった。しかし結局、日常の環境整備や公共心・道徳・モラルの育成などの全体的な取組みと、個々の生徒の生活環境や発達課題も視野に入れた「安心・安全」への総合的な取組みが重要である、という同じ結論にたどり着いた一年でもあった。「寛容と創造性を背景としたwant toの学校」づくりを、次年度も持続的に推進しながら、学校の取組の質を維持・向上させていきたい。特に、1年生に見られる影響を卒業までに解消することは、創造性を大いに発揮しなければならない課題である。</p> <p>今後とも、生徒・保護者、そして、学校評議員の皆さまのご意見をいただき、学校評価を活用した教育活動の改善を図っていきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員による意見 (全体を通じて)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先述したことと重なりますが、アンケートの教職員や保護者からの回収が一部に限られているのが残念です（何がそうさせているのか調べる必要があるのでは？）。 ・花火の打ち上げも含め、町内会では平岸高への賛歌の声が多く聞かれます。大変な時こそ（日常の反省は必要ですが）、後悔の無い生活を。夢のある平和な時代の実現に向けて頑張ってください。 ・学びを止めないために、教職員の皆様ができる工夫を講じて生徒のために尽力していることは大変評価できる。 ・このような現状の中で働き方改革の方向性が見えたり、業務のスクラップ&ビルドが進んだりすることもあると考えるので、感染終息時に、新たな持続可能な教育課程が本校で花開いてくれることを大いに期待する。 ・DAが、学校の特色ある学びとして、生徒のすがたが引続きクローズアップされるよう期待する。 ・個人的には、今年度についてはA評価やB評価をできる環境ではなかったと思っています。物理的に達成できない状況だったからです。その中で先生、生徒、保護者がそれぞれ学校ができることを考えに考え抜いて、しかも感染対策もとりながら行動していくという経験は3者それぞれにとってかけがえのない経験になり、新たな発見にもつながったことと思います。そして日々の業務でもご多忙の教職員の皆様が正解

がわからない状況で対策を講じてこられたことに心からの敬意を表します。私には想像もつかないところまで気を配り、生徒の安全を第一に業務に臨まれていた事と思います。引き続きこの状況は続きますが、どうか皆様が一丸となって乗り越えていかれることを祈念しております。

- ・今年度は本当に予期せぬ出来事により、あらゆる場面で変更や工夫を強いられた一年だったと思います。アンケートから読み取れることとして、教員と保護者の評価に乖離がなく、情報が共有されている結果だと思いました。また、生徒と保護者の回答でもほとんどの設問で大差ない回答であり、親子間でも学校についての情報が共有されていると感じました。これは、『生徒・保護者の立場に立って』という学校の姿勢（教員の努力）が伝わっていることの表れなのではないでしょうか。
- ・1年生の今後が懸念されますが、これからも教職員一丸となって自律した生徒を育てる平岸高校であることを願います。
- ・未経験の事態、しかも、人と人との交流が難しくなるという、ある意味で教師・学校の仕事そのものが否定されたかのような状況下で、授業実践や生徒指導を中心に学校運営全般にわたって、非常にご苦勞をされたことと思います。今後にご苦勞がなお続くかと思いますが、くれぐれも体調にご留意の上、お仕事に注力されることを願います。